



2023年4月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年7月12日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 2022年7月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年4月期第1四半期の連結業績(2022年3月1日～2022年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年4月期第1四半期	9,045		859		893		592	
2022年2月期第1四半期								

(注) 包括利益 2023年4月期第1四半期 578百万円 (%) 2022年2月期第1四半期 百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年4月期第1四半期	56.59	
2022年2月期第1四半期		

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年4月期第1四半期	19,571	15,383	78.6
2022年2月期	20,002	15,834	79.2

(参考) 自己資本 2023年4月期第1四半期 15,383百万円 2022年2月期 15,834百万円

(注) 当社は、2022年2月期第1四半期は非連結の業績を開示していましたが、2022年2月期第2四半期より連結業績を開示しております。そのため2022年2月期第1四半期の実績及び対前期増減率は記載していません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期		0.00		100.00	100.00
2023年4月期					
2023年4月期(予想)		0.00		80.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年4月期の連結業績予想(2022年3月1日～2023年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	17,900	0.7	1,150	23.7	1,150	0.1	710	17.5	67.82
通期	43,100		3,500		3,500		2,100		200.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

当社は、2022年4月14日付「決算期(事業年度の末日)の変更及び定款の一部変更に関するお知らせ」の通り、決算期変更を発表しており、2022年5月20日開催の第54期定時株主総会において、事業年度を毎年5月1日から翌年4月30日までとする変更を決議しております。決算期変更の経過期間となる当期は2022年3月1日から2023年4月30日までの14ヵ月の変則決算となります。詳細は本日付で開示しております「決算期変更に伴う業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。なお、通期業績予想につきましては変則決算となるため、対前期増減率は記載していません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(注)詳細は添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年4月期1Q	12,446,700 株	2022年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	2023年4月期1Q	1,972,291 株	2022年2月期	1,978,841 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年4月期1Q	10,467,931 株	2022年2月期1Q	10,467,859 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大対策であるまん延防止等重点措置が3月下旬に全面解除となった事で、経済活動にも持ち直しの動きがみられました。しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻など国際情勢の緊迫化に加え、歴史的な円安の動きにより、原材料価格や原油を中心としたエネルギー価格が高騰する等、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの属する食関連業界におきましても、「withコロナ」による生活様式が定着しており、コロナ禍以前の経済状態に戻ることは当面厳しく、更に原材料やエネルギー価格の高騰も相重なり、予断の許さない状況は続くものと予想されます。

このような環境の中でも当社グループは、引き継がれてきた経営理念「おいしいものをお値打ちに提供する」に従い、昨年創業150周年を迎えた老舗企業としての伝統の技とおもてなしによる接客を大切にしつつ、新商品や新業態等にも積極的に取り組んでまいりました。今後も「味と接客のエクセレントカンパニー」と皆様と言っていただけるよう、価値ある商品とサービスの提供を心がけてまいります。

出退店につきましては、「柿安ダイニング 阪神梅田本店」「口福堂らばーと海老名店」など3店の出店を行いました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は9,045百万円、営業利益は859百万円、経常利益は893百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は592百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(a) 精肉事業

精肉事業につきましては、『柿安の小間きれ』など既存商品の見直しや、自社工場と店舗との連携を強化することで利益改善に取り組みました。

この結果、当事業の売上高は3,494百万円、セグメント利益は332百万円となりました。

(b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、肉・魚介類をメイン食材とした彩り野菜盛りだくさんのトルティーヤシリーズに新たな商品として『ローストビーフのトルティーヤ』を全店で導入しました。また、春・ゴールデンウィーク限定の『オールスター弁当』を展開する等、味だけでなく見た目や価値にこだわった商品の開発に注力しました。

出退店につきましては、阪神梅田本店に「柿安ダイニング 阪神梅田本店」「上海DELI 阪神梅田本店」2店の出店を行いました。

この結果、当事業の売上高は3,096百万円、セグメント利益は364百万円となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業につきましては、定番商品の『おはぎ』やハーフサイズの『姫おはぎ』が好評を得ている中、新商品として味・食感も楽しめる『くるみ大福』を導入した他、有名アニメキャラクターとのコラボ商品を販売する等、活性化に努めました。

出退店につきましては、「口福堂らばーと海老名店」1店の出店を行いました。

この結果、当事業の売上高は1,815百万円、セグメント利益は370百万円となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、 Grill業態において『厚切り炭火焼ステーキ』をはじめとしたグランドメニューの刷新や、季節のサラダバーを充実させるなど、お客様目線で魅力あるラインナップの強化を図りました。

この結果、当事業の売上高は382百万円、セグメント利益は11百万円となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、「withコロナ」の中で需要が増している人気のカレーレトルトシリーズに、こだわりの『ハッシュドビーフ』や『キーマカレー』を追加し、ラインナップ強化を図りました。また、有名アニメキャラクターとのコラボ商品『減塩 牛肉しぐれ』を期間・数量限定で販売する等、活性化に努めました。

この結果、当事業の売上高は257百万円、セグメント利益は13百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ431百万円減少し、19,571百万円となりました。

流動資産は427百万円減少し、13,137百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少875百万円と受取手形及び売掛金の増加383百万円等であります。固定資産は3百万円減少し、6,433百万円となりました。主な要因は、ソフトウェアの減少14百万円と繰延税金資産の増加12百万円等であります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ19百万円増加し、4,187百万円となりました。

流動負債は15百万円増加し、3,728百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の増加172百万円、賞与引当金の増加147百万円及び未払法人税等の減少554百万円等であります。固定負債は3百万円増加し、459百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の増加5百万円等であります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ451百万円減少し、15,383百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益592百万円の計上による増加と剰余金の配当による減少1,046百万円等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年4月期の業績予想につきましては、2022年4月14日に発表いたしました数値から変更しております。

詳細につきましては、本日(2022年7月12日)公表いたしました「決算期変更に伴う業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,551	9,676
受取手形及び売掛金	2,260	2,643
商品及び製品	293	326
仕掛品	190	283
原材料及び貯蔵品	114	137
その他	154	70
流動資産合計	13,565	13,137
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,046	2,045
土地	2,224	2,224
その他(純額)	528	521
有形固定資産合計	4,800	4,791
無形固定資産	226	211
投資その他の資産		
投資有価証券	111	103
繰延税金資産	250	263
差入保証金	620	627
退職給付に係る資産	250	247
その他	175	187
投資その他の資産合計	1,410	1,429
固定資産合計	6,436	6,433
資産合計	20,002	19,571
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,022	1,195
未払金	315	381
未払法人税等	909	354
未払費用	797	878
賞与引当金	335	482
役員賞与引当金	42	8
その他	291	428
流動負債合計	3,712	3,728
固定負債		
資産除去債務	387	393
その他	67	66
固定負債合計	455	459
負債合計	4,168	4,187

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,080
利益剰余金	16,958	16,503
自己株式	△3,542	△3,531
株主資本合計	15,759	15,322
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△24	△33
退職給付に係る調整累計額	99	94
その他の包括利益累計額合計	75	61
純資産合計	15,834	15,383
負債純資産合計	20,002	19,571

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)
売上高	9,045
売上原価	4,063
売上総利益	4,981
販売費及び一般管理費	4,122
営業利益	859
営業外収益	
受取利息	0
受取給付金	30
その他	3
営業外収益合計	34
営業外費用	
その他	0
営業外費用合計	0
経常利益	893
特別損失	
固定資産除売却損	1
特別損失合計	1
税金等調整前四半期純利益	891
法人税、住民税及び事業税	308
法人税等調整額	△9
法人税等合計	299
四半期純利益	592
親会社株主に帰属する四半期純利益	592

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)
四半期純利益	592
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△8
退職給付に係る調整額	△5
その他の包括利益合計	△13
四半期包括利益	578
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	578

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、製品の国内販売において、出荷時から顧客への製品移転時までの期間が通常の間である場合は、出荷時点で収益を認識しております。

これにより、返品については、過去のデータ等に基づいて予想返品率を見積り、値引き及びリベートについては、実績が確定するまで契約等に基づいて将来の支払額を見積り算出する方法に変更しております。これに伴い、期末日時点で返品等が見込まれる対価を返金負債として計上し、返金負債の決済時に顧客から商品等を回収する権利について返品資産を計上しております。なお、返金負債については流動負債の「その他」に、返品資産については流動資産の「商品及び製品」に含めて表示しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1百万円減少し、売上原価は0百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は0百万円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これにより四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
顧客との契約から 生じる収益	3,494	3,096	1,815	382	257	9,045	—	9,045	—	9,045
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	3,494	3,096	1,815	382	257	9,045	—	9,045	—	9,045
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	447	2	8	0	282	741	—	741	△741	—
計	3,941	3,098	1,823	383	540	9,786	—	9,786	△741	9,045
セグメント利益	332	364	370	11	13	1,091	—	1,091	△232	859

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であります。

2. セグメント利益の調整額△232百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△241百万円及びその他調整額8百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の「食品事業」の売上高は1百万円減少、セグメント利益は1百万円減少しております。